

第2号
発行2016年11月15日

編集代表 西本 孝

NOI 岡山通信

日本自然保護協会
岡山県自然観察指導員
連絡会
(NOI: Nature
Observation Instructor)

はじめに

代表世話役 西本 孝

NOI 岡山は第2回自然観察会を10月22日に津黒いきものふれあいの里で開催しました。鳥取中部地震が発生した翌日の大変な状況での開催となったため、参加者は講師役の雪江さん(当会会員/津黒いきものふれあいの里ささゆり館長)を含めて7名でした。参加いただいた皆様の勇気に感謝いたします。この日の様子は雪江さんが報告してくださいました。また、翌週の10月29日と30日には、中国地方5県の連絡会が鳥取県三朝町で開催され、岡山県の私たち世話役3名を含めて51名が参加しました。震度4の余震が続く中での開催となりましたが、多くの方が地元を元気づけるために積極的に参加して、夜遅くまで続いた懇親会で交流を深めました。この時の様子は永富さんに報告していただきました。交流会は来年には山口県で開催される予定です。さらに、再来年には岡山県で開催することになりました。皆さんの協力をお願いしたいと思います。

次回第3回自然観察会は錦海塩田跡地で丸山さん(日本野鳥の会岡山県支部長)を講師に迎えて開催することが決まりました。後述する詳細にしたがって参加してください。多くの方の参加をお待ちしております。この連絡会がさらに発展するように取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新年会のご案内

幹事 橋本

新年会を開催します。おいしい魚と酒を酌み
交わしながら、交流を深めましょう。
2017年1月28日(土) 18:00~20:00
和さび岡山店 086-227-0019
岡山市北区平和町5-1

会費 5000円(税込み、飲み放題)
参加希望者は10日前までに橋本さんへ。
連絡先は michikusa@mist.ocn.ne.jp
携帯 090-7130-7044(受付時間19~21時)
二次会はおいしいワインの店へ行く予定です。

第3回自然観察会の案内

担当 橋本

- 開催: 2017年2月11日(土・祝) 10:00~
- 集合: 10時に錦海塩田跡地の大堤防北側、廃水ポンプ場横の広場(瀬戸内市邑久町尻海)
- 日程: 10時 あいさつ
塩田跡地を車で移動しながら野鳥観察
12時 観察終了後、オリーブ園に移動
オリーブ園から錦海塩田跡を俯瞰

- 12時30分 昼食
- 13時15分~45分 講義
今後の自然観察会の予定について
- 14時 終了
- アクセス: 岡山ブルーライン邑久ICから20分
- 参加希望者は橋本さんまで(資料作成の都合)。
連絡は上記の橋本さんの連絡先まで。

中国地方5県の自然観察指導員交流会2017年のご案内

担当 西本

山口県周防大島で2017年8月26日(土)・27日(日)に1泊2日の予定で開催されます。詳細は連絡が届き次第お知らせします。参加希望者は西本まで。

フォーラムのご案内 2016年12月10日(土)開催

「人口減少時代に求められる新たな里山管理とは」と題した講演会が広島市で開催されます。本会世話役の橋本智明さんも発表される予定です。

興味ある方は、下記の要領に従って参加してください。参加費は無料。

【時間】10:00~15:00(受付9:30~) 【定員】100人(当日参加も可)

【会場】合人社ウェンディひと・まちプラザ研修室AB(広島県広島市中区袋町6-36)

【詳細】<http://www.cf.city.hiroshima.jp/m-plaza/kotsu.html>

お知らせ

機関誌などの情報は、可能な限りメールで送信しています。これまでにメールが届いていない方は下記にお知らせください。また、会費を納入していない方は、自然観察会に参加した際にお支払いください。連絡先は taknishi@js4.so-net.ne.jp (西本孝)

10月22日、津黒いきものふれあいの里にて第2回の自然観察会を開催いたしました。前日に鳥取県中部で地震があり、蒜山地域も震度5強を観測しました。私は外で作業をしていたので、揺れはそれほど感じませんでしたが、地鳴りや山の揺れが大きくて驚きました。幸いにも館内は被害がなかったもので、ホッとしています。

そのような状況の中、6名の方に参加して頂きました。午前中は津黒湿原をご案内しました。この湿原は、2012年に地元の方から「湿原を再生して環境学習の場などに使えないか」との声が上がり、鳥取大学日置研究室の皆さんが中心となり、岡山県自然保護センターの方々と一緒に再生活動が始まりました。その活動のおかげで、現在では明るい日差しが差し込む湿原になり、クサレダマ・チダケサシ・ノハナショウブ等の湿生植物が増えています。湿原までの行き帰りの道中では、「ミゾソバの実を食べられるのか?」「このきのこは食べられるか?」などの話題で盛り上がりました。ちなみに、写真のきのこは「ヒイロチャワンタケでは?」となりました。参加者の方が持たれていた図鑑では食べられるとのことでしたが、他の図鑑を見ると食用には向かないと書かれており、きのこは難しいなと実感しました。



昼の休憩をはさみ、午後からはふれあいの里の散策道を歩きました。園内の紅葉はまだまだでしたが、ポツポツと赤や黄色に色づいた木々が目立ちました。咲いている花は少なくなりましたが、サラシナショウマやキクバヤマボクチなどの花を見ることができました。のんびりと歩きながら野鳥やたたら製鉄の名残なども観察しました。オオルリ、エナガ、ソウシチョウなどの野鳥に出会えました。ソウシチョウは、見た目が可愛いのですが、特定外来生物に指定されているので、見かけるとフクザツな気分になります。



津黒のこの時期の風物詩である炭焼きも見学して頂きました。ちょうど、窯に火を入れていたところだったので、山に立ち上る煙と薪が燃える匂いが風流を感じさせてくれました。今回は、運よくサツマイモ（紅はるか）があったので、参加者の方に焼き芋をおやつ代わりに食べて頂きました。出来たての芋は「ホクホク」で美味しかったです。

最後に、遠方から津黒いきものふれあいの里に来て頂いた皆様、誠に有難うございました。またどこかでお会いできることを楽しみにしております。



10月29、30日の両日、中国5県自然観察指導員交流会が鳥取県東伯郡三朝町で開催され岡山県からは、西本、橋本、永富の3名が参加した。

1日目は13時30分に三徳山駐車場に集合し(写真1)、徒歩にて三佛寺本堂に移動(石段数は結構あり、勾配もきつかった)。本堂に一同入り住職の米田師から講釈があった(写真2)。本日の題材は「そもそも三徳寺とは……」であった。内容は『日本人は、そもそも自然を神として古代から生活に取り入れ生きてきた。三佛寺は天台宗として仏教の一宗派であるが、706年役の行者が「投げ入れ堂」を開き、その後山伏の修験場としても有名である。「六根清浄」の精神が脈々と継承され、昔からの姿が今にも残されている。自然保護協会自然観察指導員中国5県交流会が当山で行われることは何かの縁でしょう。あなた方は自然を保護し、その自然を後世に残す重要な役割を持たれており是非頑張ってください。先だつての地震で当山も影響があり文殊堂の岩に亀裂が入り、せっきくの来山であるが、入山禁止となっている(写真3)。1日も早く各界の精査により、入山できるようにしたい』。

その後、宿泊先の「プランナール三朝」へ移動し、鳥取県自然観察指導員連絡会会長清末氏から明日(10月30日)の「小鹿溪散策について」のパワーポイントによる説明(紹介)があった(本来は森本満喜夫氏の「国立公園編入苦労話(仮題)」であったが、氏の体調不良の為、前記の内容に変更)。話が終わり、宿を出て温泉街を散策した。ルートはプランナール三朝----→依山楼岩崎----→温泉本通り----→恋谷橋----→プランナール三朝。距離としては1km弱。恋谷橋の真ん中辺にある「縁結びかじか蛙」の焼き物があり、願掛け絵馬が多数かけられており、また撮影のスポットでもあり多数の観光客がシャッターを切っていた(写真4)。



写真1. 三徳山駐車場に集合した参加者の皆さん。



写真2. 住職の米田師からの講話を聞く。

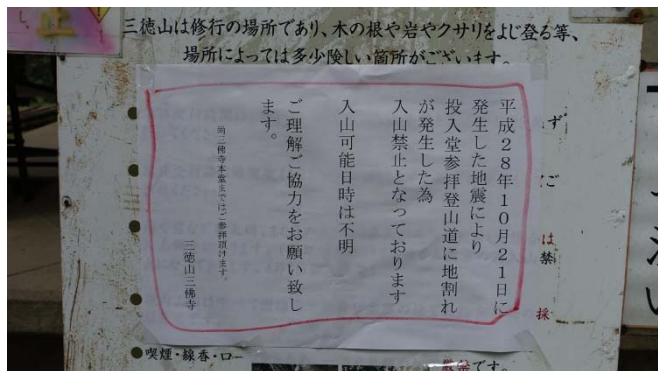


写真3. 入山禁止を知らせる表示。



写真4. 恋谷橋の中程にある蛙の置物。

入浴し、懇親会になった。今回の参加者は51名であった。大会会長の清末氏から、今回開催にかかわる苦労話などがあった。また、今回岡山県の会立ち上げでやっと中国五県のまとまりとなった。つづいて、次回開催県である山口県の会長の乾杯の音頭で進行していった。私たち岡山県も参加者3名がひな壇に上がり、西本会長の挨拶、つづいて、他の2名の自己紹介をした。次年度以降の交流会も各県持ち回りで、平成29年度は山口県、平成30年は岡山県で引き受けることになった。



写真5. ホテル前での集合写真。

2日目（10月30日）は、ホテル前での記念撮影後（写真5）、前日の案内のように予定が変更「小鹿溪の散策」となり清末氏を先頭に9時半ごろから小鹿溪駐車場を出発し（写真6）、五郎淵、雌淵、雄淵、笑顔岩などを横に見ながら、約2時間の樹木や草花等観察をした。まだ紅葉には早かった



写真6. 小鹿溪入口。

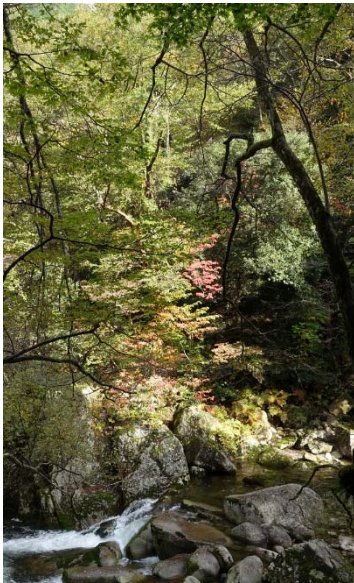


写真7. 紅葉する木々。

が、天気にもぐまれ、素晴らしい自然の作った溪流（写真7と8）、あふれる多様な植物には感激の一言であった。小鹿溪は低標高地でありながら雪深い冷涼な溪谷の気候環境の影響により冷温帯溪谷林が発達し、冷温帯を指標する植物が繁茂する希少な場所である。この「小鹿溪の散策」で中国5県自然観察指導員交流会の行事が終わり、2日間の締めを行い解散した。



写真8. 溪谷に掛かる滝。

午後からはオプションの「火渡り神事」への参加である。昼食をすませ、待つこと1時間（その間プロ歌手による歌謡ショーがあった）、14時から神事が始まった。山伏のホラ貝（写真9）、各界来賓の祝辞などがあり、つづいて採燈護摩法要が営まれ、その脇に設けられた場所に採燈護摩法要の残り火が入れられ（写真10）、「火渡り神事」が始まり私たちも参加した（写真11）。



写真9. 山伏のホラ貝。



写真10. 採燈護摩法要の残り火が入れられた。



写真11. 火渡りの神事を終えて悟りを開いた参加者。

あっという間の2日間であったが、神と一体となった三徳山、自然豊かな小鹿溪を体感することにより、自然の大切さとその保全の重要性を改めて感じた。